

主要Q&A

<全社>

Q. 2012年3月期第3四半期決算の概要は。

A. 2012年3月期第3四半期決算は、国内たばこ事業において増税・定価改定による需要減に加え、震災影響等に伴う販売数量の減少を主因に減収となりました。一方で、国内たばこ事業・海外たばこ事業における単価上昇効果等により、EBITDA、営業利益は増益となりました。加えて支払利息の減少等により営業外損益が改善したことから経常利益も増益となりました。また、固定資産除売却損益の改善及び前年同期においてカナダにおける行政法規違反に係る過料の支払に伴う損失があったこと等から、特別損益が若干改善し、四半期純利益も増益となりました。

Q. 2012年3月期の見通しは。

A. 2012年3月期の業績予想については、国内たばこ事業における50億本の販売数量上方修正を主因に、売上高、EBITDA、営業利益、経常利益、四半期純利益について上方修正いたしました。対前年では減収増益となる見込みとなっています。「JT-11」の目標である全社EBITDAの年平均5%成長を上回る見込みです。

また、今年度のフリーキャッシュフローにつきましては、4,340億円を見込んでおりますが、期末のたばこ税納付が翌年度に繰越する影響等の期ずれ要因1,450億円程度および葉たばこ購入や各市場における流動負債増加等の期ズレ要因、さらにスーダンにおけるM&Aといった要因を除くと、今年度のフリーキャッシュフロー見込はおよそ3,000億円程度と見ています。

<国内たばこ事業>

Q. 2012年3月期第3四半期累計販売数量実績は。

A. 国内たばこ事業の2012年3月期第3四半期累計販売数量は増税/定価改定による需要減少に加え、東日本大震災影響により対前年24.3%減の808億本となりました。販売数量については注意深く見ていく必要がありますが、増税定価改定影響および震災影響は概ね落ち着いてきています。

Q. 足元のシェアの状況は。

A. 月別のシェアは震災影響から着実に回復傾向にあり、12月単月のJTシェアは59.1%となっております。年度末3月単月シェア60%をめざし、注カブランドを中心とした積極的かつ効果的な新製品の投入、販売促進活動の展開などの施策を実施してまいります。

Q. 2012年3月期の販売数量見込みは。

A. 国内たばこ事業の通期販売数量見込については、通期販売数量見込を50億本上方修正し、1,080億本といたしました。これまで、震災後の製品供給再開時に流通在庫の積み増しが発生したため、徐々に適正水準まで調整する反動減が10億本程度起きるのではないかと予想しておりましたが、結果的にそのような調整がみられていないことから、修正することといたしました。また、当年度下期以降の趨勢減について、過去の経験では増税定価改定があると趨勢減が加速する傾向にあったため、6-7%程度で想定しておりましたが、今回の見込では増税前と同じスピードの5%程度に変更しております。加えて総需要およびJT販売数量について、これまでの想定より強めに推移している影響を+34億本程度織り込みました。

<海外たばこ事業>

Q 2011 年通年の JTI の販売動向は。

A GFB 販売数量は、ロシアでの Winston/LD、中東、イタリアでの Winston、ポーランドでの LD 等の増加により 2.6%の成長となりました。総販売数量は中東、ルーマニア、イタリア等の市場で成長しましたが、ウクライナでの度重なる増税・定価改定に伴う総需要減少や、スペインでの景気後退や 2010 年以降の増税・値上げに伴う総需要減少によるマイナス影響が一部を相殺し、対前年ほぼフラットとなりました。私たちの充実したブランドポートフォリオは、アップトレーディング、ダウントレーディングの双方に対応可能なバランスのとれたものであり、継続的なブランド・エクイティ強化とイノベーション、優れた営業力に支えられています。

Q 2011 年通年の JTI の実績は。

A. JTI は、厳しい事業環境が続く中、2011 年も力強い実績を達成しました。GFB 販売数量が堅調に成長したことに加え、ロシア、UK 及び台湾といった市場における単価上昇効果が主因となり、調整後売上高および EBITDA は、それぞれ 10.9%、17.3%成長となりました。また、為替中立ベースの調整後売上高および EBITDA は、それぞれ 8.0%、15.6%の成長となりました。